
開講科目名：租税法特殊研究 (4単位)

開設年次：1年 2年 3年 4年

開設学部：法学研究科修士課程法学専攻

担当者：村井 正

《授業の概要》

(1) 授業の目標

租税法の基本的コンセプト(例、租税法律主義等)、仕組みを述べた後、村井 正『租税法と取引法』(抄録)第1部 租税法と私法 コピーマート研究所を教材に使い、主に租税法と取引法の交錯する問題を扱う。更に最近の税制改正も扱う。

(2) 授業の概要

主として私法との複合分野としての租税法の問題を扱う。その前に租税法の体系を話す。基礎理論・解釈適用・課税要件法総論・課税要件法各論(所得税・法人税・資産税等)

国際租税法の論点

(3) 授業の内容

1. 租税法の基礎理論

(1) 租税法律主義

(2) 公平、中立、効率

(3) 解釈適用

(4) 租税回避

2. 課税要件法総論

3. 課税要件法各論(所得税・法人税・資産税・地方税)

4. 最近の改正法

(1) 株式交換、株式移転、持株会社、合併、分割、現物出資、事後設立等の企業組織再編税制、

(2) 投資法人、特定目的信託、特定目的会社等の主に会社型投資ファンドを中心とした金融税制、

(3) 連結納税制度、

(4) 外国税額控除、移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン、ソース・ルール等の国際租税法の基本問題についてもとりあげる。

【評価方法】

レポート提出を含め総合的に評価する。分担者を決め、報告内容により評価の参考とする。

《テキスト》

村井正著『租税法と取引法』 コピーマート研究所 2004年

村井正著『租税法 理論と政策』 (青林書院)

《参考書》

金子宏著『租税法 第18版』 (弘文堂)